

令和2年12月25日

尾花沢市議会議長 殿

会派名

代表者（無会派議員）小 関 英 子



調 査 研 究 報 告 書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	《山形県内発電事業の現状と今後の展望》研修会
期 日	令和2年 12 月 17 日（木）
主な利用 交通機関	自 家 用 車
実施場所	花 笠 高 原 荘
調査研究 内 容	(1) 山形県内発電事業の現状と今後の展望 ①「山形県エネルギー戦略の概要」と進捗状況について ②県内ほ風力発電・小水力発電の状況について ③再生可能エネルギー地産地消とやまがた新電力について
参加者	小 関 英 子

※添付書類：所感等を任意様式にまとめ添付する

## 《山形県内発電事業の現状と今後の展望》研修会所感

小関英子

山形県環境エネルギー部・エネルギー政策推進課の方から、山形県エネルギー戦略・ゼロカーボン・風力発電・中小水力発電・木質バイオマス発電所などの説明を受けることができました。

平成 27 年に認定をうけた「大正ロマン再生可能エネルギーパーク・尾花沢市次世代エネルギーパーク」は、雪氷熱利用・水力発電・地中熱利用などに取り組んでいます。これからも、尾花沢市の自然からより多くの再生可能エネルギーを利活用し、尾花沢が再生可能エネルギーのモデル地区として情報を発信できる可能性があることを実感しました。

現在進められている尾花沢小水力発電事業（村山北部発電所）、（仮称）山形尾花沢風力発電事業の説明を受けました。地元住民の方々との合意形成が大切なことを痛感しました。

東日本大震災（大規模停電）の教訓から、エネルギーの「地産地消」「供給基地化」や災害対応力や再生可能エネルギーの導入拡大で「経済の活性化」「産業の振興」のために、平成 27 年 9 月に設立された(株)やまがた新電力の事業概要の説明をうけて、電力調達先として県内 15 社・27 事業所と県企業局がある中で尾花沢市の鶴子発電所の規模 kw が全体の約 10%になることを知りました。

尾花沢市が、(株)やまがた新電力の電力供給先施設として市内小・中学校に供給できればエネルギーの地産地消が尾花沢市でできていることを誇りとして、さらに多くの可能性を探りながら尾花沢の自然を大切にしていきたいと切に望みます。